

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究 C
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18592306
 研究課題名（和文）大学院看護教育における日本文化を反映した看護倫理教育プログラムの開発
 研究課題名（英文）Development and evaluation of a nursing ethics educational program based the culture for graduate schools in Japan
 研究代表者 荻野 雅（OGINO MASA）
 国際医療福祉大学・保健医療学部・准教授
 研究者番号 60257269

研究成果の概要：

看護専門職者として倫理的看護実践を行うための看護倫理教育は欠かせないものである。一方、看護倫理教育の教材開発や教育プログラムの開発、効果検証はほとんど欧米からの導入にとどまっており、日本文化の文脈の中で提供される独自の看護実践倫理教育の枠組みは発展途上にあるといえる。特に、現在看護倫理教育で教授されている生命倫理原則は、西洋的な哲学を基盤としており、倫理原則は普遍的なものであるが、学生が教育の中でどのような価値体験をしているのかを明らかにし、教育効果を検討すべきである。

本研究は3つの研究からなっている。研究Ⅰは看護系大学院における看護倫理教育プログラムを開発しその効果検証を行った。研究Ⅱでは、看護倫理教育の中で学生がどのような価値体験をし、どのような倫理観を育成しているかを明らかにした。そして研究Ⅲで、日本と同じ文化圏に所属する韓国との国際比較を通して、文化的価値観に根ざした看護倫理教育のあり方への示唆を得た。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	1,600,000	0	1,600,000
平成 19 年度	500,000	150,000	650,000
平成 20 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	540,000	3,940,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護倫理 教育プログラム 大学院看護教育 日本文化

1. 研究開始当初の背景

看護専門職者として倫理的看護実践を行うための看護倫理教育は欠かせない。一方、看護倫理教育の教材開発や教育プログラムの開発、効果検証はほとんど欧米からの導入にとどま

っており、日本文化の文脈の中で提供される独自の看護実践倫理教育の枠組みは発展途上にあるといえる。特に、現在看護倫理教育で教授されている生命倫理原則は、西洋的な哲学を基盤としており、東洋的な文化圏で育っ

てきた学生が、看護倫理教育の中でどのような価値体験をしているのかを明らかにし、教育効果を検討すべきである。

2. 研究の目的

本研究は、日本文化に即したより実践的、効果的で、かつ包括的な看護倫理教育プログラムを開発し、その中で学生がどのような価値体験をしているのかを明らかにすることにより文化的価値観に根ざした看護倫理教育のあり方への示唆を得ることを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は3つの研究からなっている。研究Ⅰは看護系大学院における看護倫理教育プログラムを開発しその効果検証を行った。研究Ⅱでは、看護倫理教育の中で学生がどのような価値体験をし、どのような倫理観を育成しているかを明らかにした。そして研究Ⅲで、日本と同じ文化圏に所属する韓国との国際比較を通して、文化的価値観に根ざした看護倫理教育のあり方への示唆を得た。

4. 研究成果

【研究Ⅰ－1】大学院看護教育における看護倫理教育プログラムの開発

(1) 大学院看護教育における日本文化に即した看護倫理教育プログラムの開発：倫理的看護実践能力の獲得を目標とした大学院看護教育における看護倫理教育プログラムを開発した。このプログラムは講義と演習からなり、「看護実践における葛藤分析シート」を用いグループワークを取り入れたものである。

(2) 大学院看護倫理教育プログラムの効果検証：受講直後の効果としては、倫理に関する知識の獲得および倫理的推論過程の理解が挙げられた。また倫理的葛藤場面に存在する多様な価値観への気づくことができていた。倫理的推論過程の実践能力の獲得は不明であった。受講生が大学院を修了し臨床現場へ戻った後のプログラム効果としては、看護倫理教育を基盤として自己の価値観への考えが深まり、看護観が育成されたと述べられていた。しかし現場の集団的価値観と個人の価値観が異なるとき、価値葛藤を引き起こしていた。またプログラムは倫理的看護実践能力獲得および向上には結びついていないという結果が得られた。

【研究Ⅰ－2】大学院看護教育における看護倫理教育プログラムの開発－受講生のインタビューからの分析－

当研究グループが開発した大学院看護倫理教育プログラムについて受講直後の受講生

のインタビューから効果検証を行った。その結果、学生は倫理に関する知識や倫理的推論過程の思考プロセスを学ぶことはできたこと、しかし倫理的看護実践能力には自信がなく結びつかないと感じていることが明らかになった。そして授業の中で一番印象深かったのは、多様な価値観の存在や自己の価値観に気づくことができたということであった。グループワークの中で自己の価値観に直面させられたり、価値観の対立があった場合、体験と知識が統合できず感情的な体験にとどまっている学生もいることが明らかとなった。

【研究Ⅱ】大学院看護倫理教育プログラムでの受講生の価値観の変容についての体験

大学院生が看護倫理教育プログラムで自らの価値観にどのように向きあい、どのような倫理観を育成しているのか、インタビューを通して明らかにした。

大学院生が看護倫理教育を通して獲得した倫理観は、「生命」「自立・自律」「誠実」「善行」「無害」であった。しかしこれらの倫理観には日本文化的な文脈の中で解釈されていた。一つは、学生たちは無害の原則について「相手を(心情的に)傷つけないようにする」「他者に迷惑をかけてはいけない」ととらえており、「和」や「義」を大事にする価値観がその基盤となっていた。二つ目には学生たちは相手の心情を慮る、相手の気持ちを言葉にせず察することが良いことだと考えていた。三つ目には患者の家族の意思を患者よりも優先すべきこともあると考えていた。

また学生たちは、看護倫理教育プログラムの中で自己の価値観や自己とは異なる多様な価値観が存在することに気づいたと述べていた。特に学生たちは、集団の中で自分ひとりが異なる考え方をし、そして他のメンバーは同じ考えである場合、自分の考えは間違っていたと思い「ショックな体験」を受けていた。

【研究Ⅲ】文化的価値観に根ざした看護倫理教育への示唆－西洋的な倫理原則を教授する看護倫理教育での韓国の大学生の体験と獲得した価値観－

日本と同じ文化圏に所属する韓国の看護系大学での看護倫理教育を受けた大学生にインタビューをし、看護倫理教育での体験や獲得した倫理観を明らかにし、その結果と【研究Ⅱ】との結果を比較検討し、文化的価値観に根ざした看護倫理教育のあり方への示唆

を得た。

韓国においても日本における看護倫理教育と同じように、倫理原則として正義、自律・自立、善行・無害の原則が教授されていた。韓国における看護大学生も、日本と同様に「無害」「自立」の原則が大事な倫理観として獲得したと述べていた。しかしその意味は日本の学生とは若干異なっており、韓国の大学生は「他人に意図的に害を与えないこと」「他人に害を与える行動をしないこと」と述べ、実害を与えないことと捉えていた。韓国の「人乃天思想」の思想が背景にあると思われる。また日本の医療現場と同様の倫理的問題が生じていることが語られていた。韓国の看護学生は、倫理原則を学ぶことで、倫理原則を看護者としての自分の行動の指針として捉え、倫理的実践としての看護のあり方を理解していた。しかし実際に倫理的ジレンマに直面した際、倫理的行動が取れるかどうかは自信がなかったりあるいは自分がどのように行動するか考えるまでにいたっていなかった。これは、韓国調査での対象者が臨床経験のない段階であったことが関連していると思われる。

研究Ⅰ～Ⅲの結果から以下の結論が得られた。1. 本研究により、倫理的看護実践能力の獲得を目標とした大学院看護教育における看護倫理教育プログラムが開発された。このプログラムは講義と演習からなり、「看護実践における葛藤分析シート」を用いグループワークを取り入れた。2. 日本文化の文脈に根ざした教育を行うためには、(1) どのような倫理原則を教授すべきか、地域・文化的背景、医療現場の価値観、学生の文化的背景から検討すべきである。(2) 個人的価値観と集団的価値観の対立が引き起こされやすい日本の施設の文脈を考慮し、看護倫理教育の中で自己の価値観のあり方や価値観の育成のあり方について取り上げるべきである。(3) 倫理的実践能力を獲得するためには講義のみでは限界がある。学部から大学院、看護専門職者として倫理的価値観を育成し、行動できるようになるには道徳性の発達段階に準じた授業展開を組み立てる必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 1 件)

Masa Ogino, Emi Mori, Megumi Teshima, Toshie Yamamoto, Ikuko Sakai, Kyuichiro Takahashi, Chifumi Yoshida.

(2007) Development and evaluation of a nursing ethics educational program for graduate schools, 10th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Annual Conference

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

荻野 雅 (OGINO MASA)

国際医療福祉大学・保健医療学部・准教授
研究者番号 60257269

(2) 研究分担者

森 恵美 (MORI EMI)

千葉大学・看護学部・教授

研究者番号 10230062

吉田 千文 (YOSHIDA CHIFUMI)

聖路加看護大学・看護学部・准教授

研究者番号 80258988

(3) 連携研究者

手島 恵 (TESHIMA MEGUMI)

千葉大学・看護学部・教授

研究者番号 50197779

山本 利枝 (YAMAMOTO TOSHIE)

千葉大学・看護学部・教授

研究者番号 70160926

酒井 郁子 (SAKAI IKUKO)

千葉大学・看護学部・教授

研究者番号 10197767